

B-7 接着性芯地に対する一考察

—スチームと普通アイロンの接着効果の比較—

文化女大家政 ○高木 洋子
成瀬 信子
愛知淑徳短大 松崎 加津

1. 近年接着性芯地が既成服に多量に使われているが、家庭縫製時において、家庭用アイロンを用いて接着する場合、どのような条件で行なうのが効果的であるかをしらべている。今回は、スチームアイロンによる接着と、普通アイロンによる接着の効果の比較を行なった。

2. 試料は表地にスーツ用平織ウール地を用い、接着性芯地はN社の10種の中からその表地に最も適合すると思われるもの1種を選んで用いた。温度条件を3段階(約150°, 190°, 230°C)、時間を3段階(30 cm 平方の布を掛ける時間が60秒, 80秒, 100秒)、圧力を2段階(17.6 g/cm², 42.8 g/cm²)にかえ、スチームと普通アイロンによって接着を行なった。接着した試料について厚さ、見かけの比重、含気率、剛軟度、ドレープ性、色、光沢および剝離強度(接着したまま、パークロールエチレン処理後)、収縮率などを各々測定し検討を加えた。

3. 普通アイロン接着の方が、スチームアイロン接着時より、厚さ、色、光沢の変化は少ないが、硬さは小さく、したがってドレープ係数は小さい。剝離強度は、普通アイロンの接着時の方が、圧力の差による剝離強度への影響が大きい。圧力大のパークロールエチレン処理後の剝離強度が、5%の有意差で差がみられるほかは、ほとんど、普通とスチームアイロンの接着条件による差はみられない。